

第5回新宿区文化芸術振興会議（第6期）要旨

■開催日時 令和4年7月28日 午後2時から午後4時まで

■開催場所 新宿歴史博物館 講堂

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 松井千輝 的場美規子

中島隆太 大和滋 岡室美奈子 飯田直子（欠席 大野順二）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 小泉文化観光産業部長 村上文化観光課長 原文化観光係長 内藤

■議事の進行

1 開会

(1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。

(2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

2 議事（要旨）

(1) 新宿区文化芸術振興会議の内容確認について

資料1-1及び資料の1-2に基づき、前回会議（令和4年3月31日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。

(2) 調査審議事項

第6期調査審議事項について、資料2-1、資料2-2、資料3-1、資料3-2、資料4に基づき、説明した。

(3) 意見交換

(4) その他

【以下、意見交換】

・ICTの場合、芸術サイドにおける利用の状況は、分野によっても非常に異なるし、その団体の体力や、その状況において、かなり活用状況が違う。

・ICTの活用がコロナ禍で主に動画配信を中心に達成されてきた。あと、新たなメディアとしてVR、XRなどが出てきた状況で、どういう展開をしていくかということは、まだ見えない状況があると思う。

・この会議の意見として、先ほども報告があったが、まだ十分な議論ができていないというようなことがある。では、どういう考え方で次期に絞ったらいいのか。

・例として、区が文化振興にICTを生かしていくことを考えると、今、区がやっているフィールドミュージアムのウェブやSNSをうまく活用していくことを考えていくとかなり議論が絞れるし、フィールドミュージアム協議会参加団体の利用も促進するという側面が出てくると思われる。

・フィールドミュージアムができる前、あるいはオリンピックに向けての協働事業、いろい

ろな文化プログラムをやろうとしたときに、フィールドミュージアムの冊子を作るところからスタートして、皆さんがウェブから情報入力を始めて、データを集めて冊子にした。それをウェブで発信するという、展開をしてきた。

- ここ数年のコロナも含めて、紙媒体だけではなくて期間。フィールドミュージアムの期間というのが、オリンピック中は長くなったが、通常は期間が2カ月しかないことがあるので、これを年間対応へという考え方から、ICTの活用を、各団体にもう少し促進をしていく。

- この2年間それを伸ばそうと言ったのだが、各団体がコロナで対応に十分力を発揮できない状況があり、十分に進んでいないということもあるので、やはりこのフィールドミュージアムという媒体を生かして、何かICTの活用を、会員の参加を促していくということがもう1点。

- そのチャレンジの中で、新宿観光振興協会があるので、そのウェブともう少し連携をしていくとか、区内の団体の利用、活用を促進していくと。これはウェブということとSNSと両方あると思うが、そういう具体的な議論がされてもいいのかなと。

- ICTという媒体についての議論が非常に多岐にとられていることがあるので、そういう絞り方も1つの案としてはあるのかなと思う。

- フィールドミュージアムの特徴は、区内にある団体や施設が参加していることがあるので、区内の施設でやる。例えば、主に劇場系はそうなのだが、必ずしも区内の人が公演しているわけではなく、都内から、あるいは都外からも含めて団体が来て公演をしたり、情報発信をしている。お客さんも区内だけではなく区外からも参加している。

- 新宿はそのボリュームが大きい構造があるので、条例でも区民を、新宿区に来る人も含めて定義しているので、そういうところの情報収集をこれからどうするかという問題もあると思う。

- 次の西口のテーマと関わるが、今年6月、JR東日本新宿駅と新宿観光振興協会が駅周辺の劇場、映画館等の情報を集約して、チケット販売のキャンペーンをやった。秋にもやろうという動きがあるようなので、やはりフィールドミュージアムと観光振興協会との密接な関係をしっかりさせてやっていくと、ICTの活用が、関係団体には進むのでは。そして、区民及び区民以外も含めて進んでいくかなというようなことがある。

- ICT独自の芸術が生まれるという問題はそう簡単な話ではないので、なかなか議論が進まないだろうと思うが、何らかの絞った議論が次のテーマとしてできれば、コロナ後を見据えて、何らかの形ができるのかなというようなことを考えている。

- 関連して、西口の開発の点で言うと、新宿駅周辺は区内、区外から芸術家も集まるし、お客さんも集まるという場であるので、この間、西口の駅前の再開発の議論はしているが、やはり中央公園から既存の西口の公共空間及び新たにできる西口の公共空間を、いかに面的に生かしていくというようなことを考えるような議論があるといいのかなと。

- 先ほど言ったように、都内全域から集まってくるので、何かそういう芸術が集まるような

発信のスポットみたいな展開を考えられたらいいのかなと。西口の検討が、新宿区全体というだけにとどまらない、東京、首都圏全体への展開を含んでいくような思いでの議論があればいいと思っている。

- 連携という観点で、具体的に大きなところでは、来年1月に歌舞伎町周辺のライブハウス8つと連携したイベントを計画している。特徴としては、ライブハウスがかなりあるということと、6月にJR東日本と新宿観光振興協会が劇場や映画館との取り組みをやったので、何かそういう専門的な部分の発信体制を強化するみたいな、複合的な、つながるようなことが議論ができるといいと感じた。

- 第6期の報告書案について、2つの報告事項とも中間的なまとめということで、集約の方向を導き出して抽出いただけるのではないかというふうに拝読した。

- 特にICTの活用については、非常に視点が多様だし、またどこに絞り込んでいくというか、重み付けをしていくことは、やはり重みを付ければどこかを軽く見なければいけない。それはそれぞれに必要なことだったりするので、大変難しいところかとは考えていた。

- これまでの議論を踏まえると、国の議論というのも、この会議自体の継続性を考えて、もう1つの足がかりになるのではないかというのは、それぞれの関係であった。

- もう1つポイントとして、とても大切にしたいと思ったのは、文化芸術と触れるというそのリアルな活動自体をいかに大切にしていくかということに、ICTをどううまく導入して取り組んでいくかということも、もう少し議論をしたい。

- その考えの手がかりとして、第6期報告書案の最後に文化芸術振興基本条例が載せられているが、その前文を改めて読み、こちらに文化が象徴されている。それも新宿というまちにおいてどんなふうになっているのが望ましいのかということが、まさにそのとおりだなと拝見した。

- 特に第3段落目の「多様性と先端性を合わせ持つ都市として、その懐の深さにひかれて集まる様々な人々の無限に広がるエネルギーがある」との部分は、これこそがコロナによって途絶えてしまったこと、取り戻したいこと、そこは同じ内容が、新宿区の再開発というところにおいて、文化芸術が何をここで出していけるのかということにもつないでいけるかと思った。

- 報告書案では、公開空地のことについて特に注目して、活用ことが言われた。それも1つ、人が集まったとして大きなきっかけになろうかと思う。もう1つはよく言われることだが、350万人の世界一の乗降者数がある新宿駅。そこの人々が行き交う中であって、不要不急ではないというふうなことがあったが、心の豊かさをチャージするということに文化芸術というものがあるので、そこをしっかりとできるような機会であったり、場所であったりということが担保されるような駅のつくり方であったり、周辺の動線であったり、そういうところで生活時間をしっかり見据えながら議論を進めていければと思った。

- 報告書案を拝見して、新宿をこれからどんな文化のまちにしていくのかというビジョンがやはり足りないのではないかという気がしている。それはこの会議でもずっと議論して

きたことだと思う。

- 他のまちにはない新宿のよさを生かしながら、どういう文化のまちにしたいのかというところがなければ、結局のところ、ICTをどう使うかという具体的な話になっていかないのではないか。

- 新宿の文化の個性というのは幾つかあると思うが、1つはやはりダイバーシティのまちであるということが、大きいのではないかという気がしている。

- 例えば東京レインボー祭りも新宿でやっているし、例えば性的マイノリティとか、多文化共生とか、いろんな形でダイバーシティが実現されているのが新宿なので、そういうのを文化の大きいうねりの中に取り込んでいけないか。

- 様々な文化がいろんなところで渦を巻いていて、それぞれの渦が連携し合っているようなものが、新宿の文化の1つの個性ではないかという気もする。そういったものを大きいうねりにまとめ上げて、どうすれば「新宿の文化はこれだよね」というふうにしていけるかというときに、1つには新宿フィールドミュージアムの活動というのは重要だろうと思う。

- 実現できるのか分からないが、いろんな芸術祭を見に行ったりして、やはり行政と民間が一体となってまちを盛り上げているようなところは、非常にうまくいっていると思う。

- 例えば六本木アートナイトとか瀬戸内国際芸術祭とかいろいろあるが、例えば横浜のダンスと音楽のまちとか、必ずしも芸術祭をやる方がいいことだというわけでもないが、何かしらこのまちはこういう文化を目指していきますということを、広く強くアピールできるような取り組みを、例えば国のお金をとってきてやったらどうかなどはいつも思う。

- もちろん新宿フィールドミュージアムもすごくいい活動をしていると思うが、それをもう1段階大きいうねりにしていけないかとは思っている。

- 駅周辺が大きく再開発されるときでもあるので、結局のところ、駅周辺が開発されていくと、他のまちと区別がつかなくなる恐れもある。そういう中で、新宿はこういう文化を目指していますということを強く打ち出していくような、個性のある取り組みということが必要ではないかと思っている。

- かつては演劇やジャズとか、いろいろ新宿を象徴する文化があったと思うが、今はそういうものが分かりにくい。例えば、ライブハウスとか、新宿の中で息づいている様々な文化があっても、新宿はこういう文化のまちだよね、というふうに外から認識されるには至っていないという気がする。

- やはり新宿はどういう文化のまちを目指すのかというあたりの議論ももう少し深めて、そういう大きい方針にのっとってICTの活用も考えたいし、例えばSNSとか様々な発信の方法というものも考えていけるのではないかと思っている。

- 何となくやっぱり漠然と「ICT必要だよね」とか言っても、大きなうねりになっていかないような歯がゆさを感じている。

- あとは公共空間の活用ということも視野に入れながら、少し漠然とした言い方で申し訳ないが、大きいうねりをつくるようなことができないかを感じている。

・今回は最終結論を出さずに、中間報告という形になった。ICTの活用については、やはり非常に議論が拡散していったので、今の立ち位置として今後に向けて、そこをある程度絞り込んでいくという方向になると思う。

・この議論の中でもイベント自体の発信ということと、中身の発信ということの2つが大きなものであるが、中身を発信していくことについて、区が作り方とかそういうことも含めて支援すること、最初からそこにチャレンジするというのは非常に難しいと思う。

・まずはICTを使って、例えば新宿観光振興協会と連携して、新宿区でやっているイベントの検索サイトとか、そういう情報発信の共通プラットフォームをつくり、そのサポートをすることは、芸術家支援のための1つの方向性としてあるのではないかな。

・それは、最終的には集客につながるはず。集客しないと食べていけないから。食べていけなければ文化芸術は育っていかない。結局その現実を見ていくと、ICTの活用の最初は、イベント情報を検索するサイトみたいなものの共通のプラットフォームをつくり、そこには新宿観光振興協会などいろんなところとコラボをしながら、その情報が拡散していくようなプロセスができればいいと思っている。

・今回もその1つの枠組みの中に新宿フィールドミュージアムはあると思うが、周知物を紙で15万部作っても、集客するターゲットを誰にするかということにもよると思う。先のライブハウスの話も、ああいう活動は、情報を紙でとる顧客層は恐らくいないと思う。

・そういう意味でやはりターゲットを若い世代に絞れば絞るほど、やはり紙以外の情報ネットワークに乗せることに区がサポートをする。こういうのは1つの解決方法であるのではと、この2年間の議論を通じて感じている。

・その中で、新宿も、何とか祭というのものもあるということ。そこは区がもういろいろと考えながら進めていく世界なのだが、例えばフィールドミュージアムの中に毎年ごとのテーマを絞り込んで、そこに折り込むような枠組みも、1つのアイデアとしてはあると思う。

・公共的な空間の活用。これは新宿が持つ1つの強みだと非常に思うが、パフォーマンスを行うとするといろいろな規制の問題がある。そこは利活用目的というのをある程度絞り込んでいながら、その中でここはこういう空間、ここはこういう空間というようにしていけば、ある程度やり方も具体的に絞り込まれてくるのではないかな。

・もう一つ、空間がメリットにもデメリットにもなるのは、点のまま孤立するか、空間が線になるかで、ここは大きな分かれ目になると思う。

・基本的にはまちづくりを考えると時には線にならないといけない。いろんな空間、公共空間ができてくると思うが、その空間が線につながっていくようなアイデアを持ちながらまちづくりをしていくというようなことも、非常に重要になっていくのではないかな。

・報告書案にもあるように、新しい生活様式になってICTの活用が課題ということがよく分かっており、この活用についても本当に何回も会議で議題に挙がっているが、やはり具体的な策とか、成果が上げられないというので、非常にモヤモヤしているところがあり、スピード感の遅さというのを常に感じている。

・コロナ前は情報発信としてインフルエンサーをお願いするような案も出ていたと思うが、結局、具体的にそのインフルエンサーの名前も挙がらないまま終わってしまった。もしフィールドミュージアムに力を入れていくのなら、また来期インフルエンサーのお話も挙がって、誰に情報発信を頼むかということも、具体的に名前を挙げて進んでいってほしいという思いもある。

・新宿区に関して、ICTの活用の遅さは文化芸術のことだけでなく、教育面においても非常に感じており、昨年度に区長との懇親会の際に、GIGAスクール構想の話をしていただき、ICT活用の遅さについてお話を振ってみたものの、なかなか具体的な策もないまま、これではどの分野もスピード感がなくて、この区は大丈夫なのだろうかと少し思ってしまった。せっかくこの会議が区長の附属機関であるので、もっと積極的にアクションを起こしていただければと思っている。

・都市開発に関しては、『新宿plus』を見ながら、2023年には東急の歌舞伎町タワーが建つとか、2029年度には新宿駅西口一帯が新しくなり、ランドマークができるのだと、非常に楽しみが膨らむものの、やはり新宿の歴史とか、文化伝統が結びつくかというのは、そこは少し話が違って難しいなとは感じている。

・前回の会議でも開発を踏まえるに当たって、新宿の特徴について話が挙がっていた。ダイバーシティとか、性的マイノリティなどのワードが挙がっていたが、ただ新宿区は多様性を売りにしているにもかかわらず、実際はパートナーシップ制度とかファミリーシップの届け出制度とかを認めていないので、その辺に非常に矛盾を感じていて、そんな中で例えばLGBTQとか、そういったイベントを形だけやってもいいのかなというものが少し疑問に思ったりした。新宿区としてのお考えを事務局にお聞きしたい。

(事務局)

・個別の話について、今、お話をするというのはなかなか厳しいが、ICTの活用についてどういうふうにしていくか。すごく議論があり、ICT化が区の、例えばGIGAスクールもそうだとか、私どもで言うと情報発信が少し不案内というような話で、ご指摘のところが不十分なところがあり、頑張っていけないといけないというようなところは、もちろん準備していく。

・一方で、ICTを活用していく中で、様々なことを考慮していかないといけない。というのは、公共団体の責務の1つでもあるので、そこは準備をする。最近も例えばYouTubeの活用をどういうふうにしていくのか。区でもやっているが、なかなか再生回数が上がらない。そのような話の中でどうやっていくのが一番いいのかというのは、取り組みを進めていきたいと思う。

・個別の、LGBTQについてとか、取り上げるのかどうかという話は、基本的にここですぐ話が出るようなものではなく、様々な議論をしなければいけない。文化芸術でも音楽があれば絵があり、様々な分野があって、どこの分野をどういうふうにするのかというのは、皆様のご意見を伺いながら検討していかないといけない。

・先ほど、新宿の文化はこれと決めたほうが良いというご意見があったが、いや、決められないというご意見もあったと思うので、そういったところはいろいろな検討をしていかなければいけないと思う。

・端的に、やはり一区民としては多様性を売りにするだけではなくて、新宿区の本質が多様性を認めているからこそそのイベントであってほしいと思っている。なので、新宿区らしさを保ちつつ新しいこともどんどん発信して行ってほしいし、あと再開発のスペースは、新宿フィールドミュージアムに力を入れるならそれを持続的に続けて、なおかつ新しい文化も加えながら、またそのスペースで活動して行ってほしいと願っている。

・私も、目的やターゲットを明確にするのはすごく大事なことと思っている。まずそこが決まらないと、何を発信していいのかということの方向性が定まらないので、ターゲットが求めている情報を提供できないという状況になってしまうと考えている。

・なので、まずは目的とかターゲットというのを明確にしていくことがすごく大事なのではないのかと考えている。

・情報の発信やICTの活用について、これからは戦略的な情報発信がすごく大事とされているようで、受け取る側が共感できたり、あとは自分ごととして考えることができることが大事とされているようだ。

・行政の関係のものというのは、一応発信しましたというのはあるが、それに対してリプライがなかなかなくて、結果的にループがつかないような状況になりがちで、せっかく提供したのであれば、それが相手に響いて共感を得られて、その結果拡散していく。その結果いろんなことが広がっていくようなことが、一番自然体なのではないかなと思う。

・では、何ができるのかということなかなか難しいが、まず新宿は昼間人口も多いし、なかなか自分のまち、自分のふるさとという感覚を持たれる感じも少ないのではないかなと思っているが、確実に住民もいるし、働いている方たちもたくさんいる。その方たちが「新宿ってこんなまちだよ、こんなことがあるんだよ」と少し自慢にできることは何だろうと考えたときに、いろいろあるが、これというのがなかなかないんじゃないかなというのが少し問題だなと思っている。

・目黒川はすごくいいと言われているが、個人的には神田川の桜はすごくすてきだと思う。それをいろんな方たちが、いろんな価値観があるので、自分はこれ、すごくいいと思っているよ、ここ、すごくいいんだよ、だから新宿好きなのだよと、愛着心を持つことはすごく大事なことだと思う。

・それがこの愛着と、何かのまちというところにもつながっていくと思うので、ぜひ愛着心を持てるようなまちに育ててほしいなと考えている。

・西口の開発について、私たちとかみんなが希望していることもあるが、一応都というか、国としての、新宿の役割みたいなのも一応あるようだ。それは渋谷とか、あとは池袋とかいろんなまちの中の一帯の拠点地として。要するに、空港で言えばハブ空港のような、そんなイメージのものを期待されているようなところがあるので、そこも念頭に入れながら新宿

はハブのような拠点として発展するという事は、国際力がすごく豊かになるというふう
に、国とか都とかは考えているようなので、そこを文化とどうやって絡めていくのかとい
うのを議論していただければと考えている。

- ・最終的には全ての人、いろんな方にとって文化が身近に感じられて、文化が発信できるよ
うなまちというものを、きれいごとなのだが、目指していただければなと思っている。

- ・この間の議論というのは、コロナ禍における文化振興はどうあるべきかというところで
あったと思う。

- ・コロナ禍の影響がどういふものかということ、この2年間で中止したイベントとかい
ろんなものを抜き出しているが、結局人と人が直接交流するものはやめたということ。こ
れは何かというと、文化振興にとって交流というのは非常に大きい問題で、その交流とい
うのを動画配信できるICTで何とか代えられないかと、そういう議論になったわけだが、
結局それは不可能だろうと思う。

- ・人と人が直接交流して出てくるものについては、ICTで代えることができない部分
が多いと思う。そういうことで、このコロナ禍における新宿区の文化振興についてというテ
ーマで、これからもずっと考えていかなければならないと思う。

- ・もう1つは新宿駅周辺の文化に焦点を当ててきたが、今言ったように新宿駅周辺を、都
国はというふうに考えているのかということ、何かで知る必要があると思う。そして、
今までの議論ではそういうことで、抽象的ではあるが、大変大事なことを議論していたが、
具体的に考えるということが、今後必要ではないか。

- ・例えば新宿駅周辺に伊勢丹、小田急や京王とかデパートがたくさんある。そういうデパー
トの文化を、美術の展覧会との関連においても考えてもいいのではないか。それから、映画
館がたくさん集まっているということにも、注目してもいいのではないか。

- ・具体的に言うと末廣亭とか、喫茶らんぶると、ゴールデン街、思い出横丁、こういうもの
を何とかして残してほしいという個人的な希望を持っている。末廣亭とらんぶるについ
ては、新宿区は登録文化財にした。ゴールデン街や思い出横丁はどうしようもないが、また別
の方法を考えないといけないと思う。

- ・新宿駅周辺でないところ、例えば神楽坂。ここも文化振興のよりどころとして考えたほう
がいいのではないか。神楽坂では、ほおずき市とか朝顔市をやる。そういうのに注目すると
か、それから、百人町も鉄砲隊。あれはどんどん新宿のほうまで出てきたわけだから、こ
ういうお祭りがあるのだと。こういうのは行政が働きかけることができるのではないかと
思う。

- ・新宿駅にあるのは広場。一種の通過点であるが、その通過点の中の広場というものを利用
するという事も考えてはどうか。

- ・新宿区の名所。例えば四谷の於岩さんの神社に、パネルが置いてある。新宿の文化をそ
ういう形で紹介する場所として考えたらいいのではないかと。具体的にはそんなことを考
えた。

・平成22年度から第1期の審議が始まり、あのときは新宿文化センター、それから新宿フィールドミュージアム。どういう形で動かしていくのか、まさに文化振興の中心的な課題であり、方法としても直接支援をする、助成をするというものだった。

・10年たった今、コロナもあって、今やICTとまちづくり。しかも方法としても規制緩和であったり条件整備であったりという形で、非常に大きく変わってきている。

・逆に行政が直接できること、例えば文化センターは新宿区の施設だから、直接的な助成や支援ができるわけだが、これが芸術家とかプレイヤーの人たちの活動を継続させていくという観点からICTを考えるといったときに、行政ができることは非常に限られている。多分プラットフォームを充実する、拡充する、あるいはノウハウを何らかの形で普及するというようなことであって、ある意味サイドサポートとなる。

・まちづくりに関しても、これは明らかに民間のデベロッパーがやるから、当然規制をかけて、都市計画の中で再開発をしてもらう中、どうやってそこを緩和して何らか別の公益的な目的に使ってもらうかというような形の、まさに言ってみれば行政の非常に重要な役割に近い。

・直接助成というよりは、条件整備であったり、俯瞰的な立場からの規制緩和。規制をかける、あるいは緩和する。それと官民協働による民間が活動しやすい条件整備ということで、他の分野との連携も必要になってくる。そういう時代に入ってきたなというのを非常に強く感じた。

・次期のICTとまちづくりについて議論する際の絞り方ということで、まず1点は、ICTはもう不可逆的なものだと思う。ただ、それは内容面で行政が関与できるのかということ、それはない。マーケティングやファンドレイジングとか様々な活動を、プレイヤーがニーズとキャパシティに合わせてやっていく。それをどうやってうまくサポートできるかというところがポイントになるのかと。そういう活動が発展し、継続するために障害となるものを除き、必要なら、規制を緩和していく。

・既存のプラットフォームがあるので、そのへんをうまく統合させてより使い勝手のよいものにしていく。それによって単独ではできないような情報発信を、芸術団体、劇場、ライブハウスなどができるようになれば、当然その後、拡散していくということにもつながっていく。

・こういう論点から、まずは関わっていくのが重要かと。個別のやり方については、それぞれの団体や劇場とかのニーズやキャパシティがあり、ミッションもあるので、それに合わせてサイドサポートしていくということは啓蒙したほうがいいかなという感じがしている。

・2つ目のまちづくりについては、やはり最近はまちづくりの中に文化を取り込むというのが非常に強く傾向として出てきているのを、ここ10年ぐらい実感している。

・東急の二子玉川の開発のときに、社長がこれからは衣食住遊。遊は遊ぶ。これを考えないといけないと、はっきり言った。非常にゴリゴリのハード系の鉄道会社の社長さんが遊ぶ

と言うかなと思ったが、そういう意味で、広い意味でのエンターテインメントは重要だとつくづく感じている。

- ・新宿は人流も非常に多いが、割と通過点であることが多いので、ここをどううまく回遊させてつなげていって、地域にある意味消費を落としてもらい、芸術文化活動につなげていくか。芸術文化活動を継続する、そういうサイクルにつなげていくという観点から、ぜひまちづくりについても検討していただければよいと思っている。

- ・その際、文化はかなり広い概念になると思う。食文化も入ってくるだろうし、土地の記憶とか建物とか、あるいは記念碑的なものとか、様々なものも全部込みで、文化というものを捉えていく必要も出てくるだろうから、そのあたりも配慮して議論していけたらいいと思っている。

- ・特に前回か。ICTについて、いろいろなツールとしての問題が出てきた。文化芸術振興会議としてそれをどう使うかということで、前回のまとめとして、ICTとリアルなものとの関係は何かと。

- ・文化芸術振興というのは、あくまでもリアルなもの。文化はやはりリアルなものであって、前回のときの発言、目、耳、あらゆる感覚、人間の存在としてのリアルなものに触れていく。それが日本の文化に伝統的につながってきている。文化の伝統というのは、そういうリアルな感覚的なものとつながっている。

- ・これは谷崎潤一郎の『陰翳礼賛』につながる。つまり現代では様々な住まいにしても何にしても、新しいものが出てくる。しかし、直接の人間の感覚につながるもの、これが文化で、それが日本の文化伝統につながる。それを現代の我々の文化芸術振興にどうやって受け継ぐか。いろいろな情報をICTで知るといえるのは、もちろん大変重要だが、それが実際のリアルなものとして、人々に受け継がれる。文化芸術というのはそれが大事で、それであれば日本の文化的な伝統ともつながる。

- ・そうすると、先ほどの西口広場とか、これは場所。広場は場所だが、場所はお祭りで人々が集まることで意味があるのだと。何をやるかというところに集まってくる。つまり人と人とのつながり。文化というのは、要するに人のつながり。

- ・それを勝手なことをやられたら、もちろん困るわけで、いろいろ規制も必要だろうと思う。それは行政なりできちんとする上で、西口広場でお祭りができるかどうか。つまり人間的なリアルなものがそこで生まれてくる。

- ・そういう形で、我々は文化芸術振興をやるが、行政のほうでは、それが一般の社会にマイナスになっては具合が悪いということが重要なポイントだと思うので、それを行政でも考えていかなければいけない。その上で感覚的な、結局リアルとバーチャルの問題になる。バーチャルなものがどんどんできてくる。これは非常にありがたいけれども、文化芸術はやっぱりリアルなものなので、それをどうやって担保するかというのが振興会議の問題。

- ・それは広場の使い方にしても、劇場の使い方にしてもそうで、特にコロナなどが出て来ると、生命を脅かすから、集まっては困るとかということも、もちろん考えなければいけない。

・しかし、それを含めながらここで、先ほどの日本の古い伝統の話。新宿はいろいろなものがあるけれども、古い文化遺産もあるので、みんなで守っていく、触れていく、そういうことが大変重要ではないか。

・文化というのは人間的でリアルなものなのだというのは、文化を考えていく上でとても重要なことだと思うし、まちづくりに文化をどう取り込むかも、ここでの議論の中核となることだと思う。

・正直申し上げて、新宿の文化は衰退していると感じている。

・これも何回も言っているが、かつて新宿は、日本の文化の中心だったと思う。様々なすくすばらしい文化がいろんなところにあるにもかかわらず、新宿が文化の中心であるとは誰も思っていないということに、とても危機感を持っている。

・その文化を中心に据えたまちづくりをどうしていくかというときに、やはり国からどうお金を引っ張ってくるかということを考えてしまう。

・どういう文化を新宿が目指すのかということは決められないという意見もあったと思う。決められないというか、要するに多様な文化があることが新宿の持ち味だから1つに決めることはできないという意味だと理解したが、必要なのは、決められないというか、決めないほうがいいのであれば、それをどう言語化していくかだと思う。

・先ほどの、例えば神楽坂のほおずき市や朝顔市とか、そういうものも新宿のすごく重要な文化だが、ほうっておけば文化は衰退していくので、そのときに区全体としてどう守っていくのか。そのために区として文化に対してどういうビジョンを持たなければいけないのかということとは、やはり根本的な議論として必要なのではないかと思う。

・なので、決めるのは難しいから、決めないでおこうかということではなく、こういう場所で「新宿の文化ってこういうものだね」というふうにどう言語化していくかみたいなことを考えていきたいし、そこでキーワードとなるのが、例えば広場や、ハブという言葉

・1日の乗降客数が一番多いとか、様々な文化が渦を巻いているとか、そういうことを前提としながら、新宿の文化に対してビジョンを持つことが、こういう場所での1つのミッションではないかと考えるので、そこは危機感を共有していただきたいというか、そういうことを目指す場所であってほしいと思うので、この場で共有できるといいのではないか。

・これは要するに文化芸術振興会議のあり方についての問題。もちろん行政のほうとの兼ね合いがあると思う。普遍的には今、おっしゃられたように、文化というのはそういう人間的なものであり、必ずしも機械的なものではない。

・先ほどのほおずき市などは江戸以来のいいもので、確かにほおずきが1つの文化ではある。そういうものをどう守るか。あるいは、逆に育てていく。それは行政のほうではやはり規制がいろいろあるだろう。

・行政もなかなかいろいろ考えている。今後もどういうふうにそれを守りながら、育てていくということをやっていただくということは、この振興会議の行政に対するお願いになるかと思う。

- ・新宿は日本の文化の中心という話は、そういう認識は全然持っていなかった気もするので、どう考えていけばいいのかは分からない。
- ・あるコンセプト、どういうまちにしたいのかというのは、すぐれて区長レベルのトップの問題で、なかなかこの会議で議論できるかという問題はあるかと思う。
- ・今、文化振興という考え方でいくと、リアルと広場というキーワードが重要だろうと思う。
- ・ある高名な音楽家と話していたときに、情報は記録だよ、リアルは、ライブは記憶だよと、記憶に残るといいうい方で区別して、リアルの文化について発言をして、その重要性について訴えていく、そういうのを言語化するとおっしゃられた。その文化振興における重要性という観点において、何らかのコンセプトを考えることは考えられるのかという気はする。
- ・10年以上前、文化芸術振興基本条例をつくったときに、新宿というのは多様性のまちというのを議論して、ある分野には決められないというような状況だった。
- ・この会議の議論の中でも新宿文化センターのコンセプトを決めるのに大変長い議論を費やしたということもあり、ある特定のコンセプトを決められない。
- ・行政の持つ独特の仕方がない問題があるのだが、そういう議論も出た中で、やはり今回の西口のまちづくりと広場という。人が集まる、文化の特徴は人と人との交流というようなものから生まれてくるということを見ると、そういう観点から、あのとき区長は、文化芸術創造都市・新宿という言い方をしたが、その中でフィールドミュージアムをやろうみたいなことの議論になってきたという経緯がある。
- ・文化芸術創造都市・新宿に代わるような何か違ったコンセプトを、多様性も包含して、文化の特徴を包含して、何らかのコンセプトを考えるということはあるかもしれないが、この辺の議論はどこまでこの場でできるのか。
- ・そういう課題を出して、区長が、それをやっていこうと言うか分からないが、そういうレベルの話かなという気がしている。
- ・非常に本質的な議論だと思う。この文化芸術振興会議もこれだけで終わるわけではないので、また次の期でも議論が進むことと思う。
- ・本日の会議での意見、議論を踏まえて、第6期の報告書案を、事務局で最終的にまとめていただきたい。

3 事務連絡等

9月頃に予定している第6期の調査審議内容についての区長報告会及び第7期第1回の会議の日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長の挨拶をもって、午後4時に閉会した。